

収穫後はすぐに稲わら、 籾がらをすき込みましょう！

- ✦ 時期：収穫直後～10月中旬（地温 15℃以上）
- ✦ 方法：5～10cmの浅うち
- ✦ 籾がら施用量：最大 250 kg/10a まで
（籾がらの排出量は 10a あたり約 120 kgです。）



【効果】

- ①ケイ酸や有機物を含む稲わら、籾がらを長期連用することで、堆肥と同等の「土づくり」効果が期待できます。
 - ②秋にすき込むことで、翌年の分けつ期のワキが軽減されます。
- ※乾きづらいほ場では、腐熟促進剤等を活用し、稲わら分解を促進させましょう。

【土づくり資材の施用量】

土づくりマップを確認し、ケイ酸、リン酸、鉄が不足しているほ場では、以下の資材や堆肥を積極的に施用しましょう。

JA が扱う資材例（10a 当たり施用量）		
不足している資材	ケイ酸	ニュー米スター（30kg）
	リン酸	苦土重焼燐（20kg）
	鉄	おぐに土づくり肥料（30kg）
	全般に不足	柏崎専用土づくり肥料（40～60kg）

土壌特性は柏崎地域土づくりマップを参考にしてください。

※ 普及センターHP掲載のマップはこちら



**来年の猛暑に備えて
今から土づくり！**

【来年の雑草対策のために】

高低差が大きいほ場では、秋のうちに水平になるように均平作業を行いましょう。

柏 崎 地 域 農 業 振 興 協 議 会

お問い合わせ 柏崎農業普及指導センター（0257）21-6263
合わせ先 かしわざき営農センター 21-0220 南部営農センター 41-6087 北部営農センター 45-2258